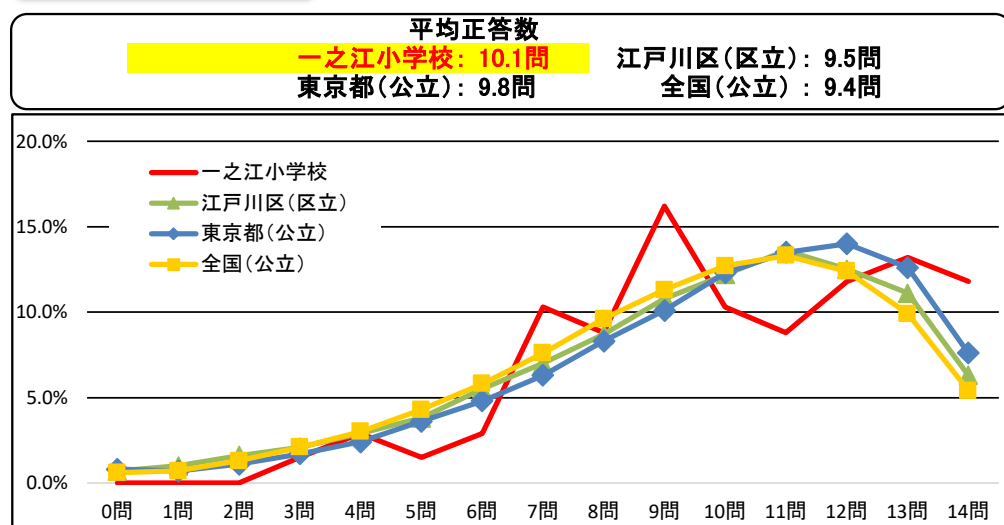


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立一之江小学校

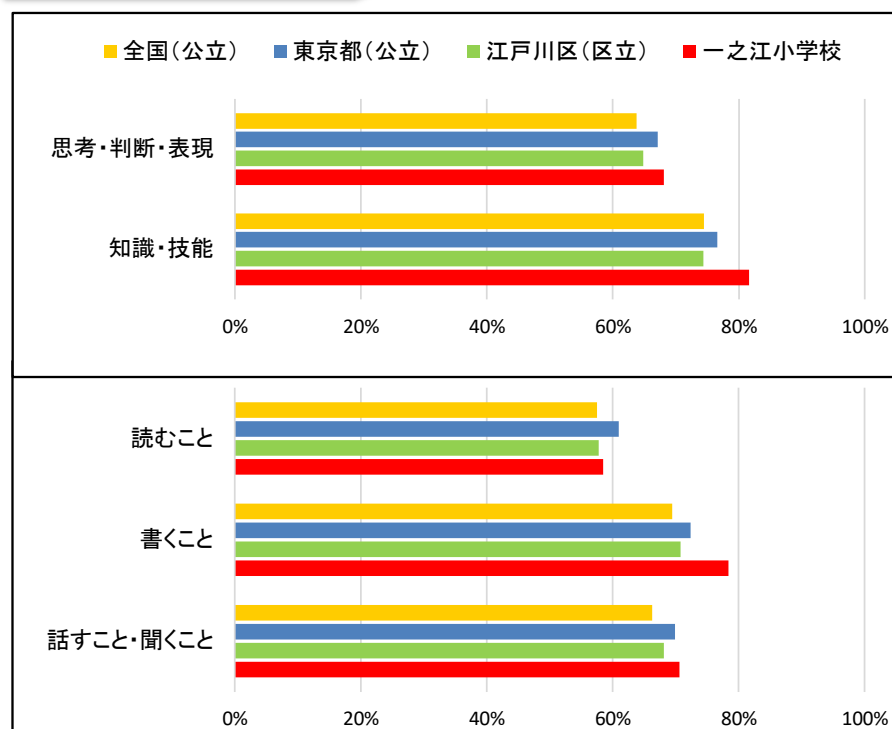
正答数分布



【平均正答率の差】

一之江小学校	72%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	2.0

「領域別」の結果

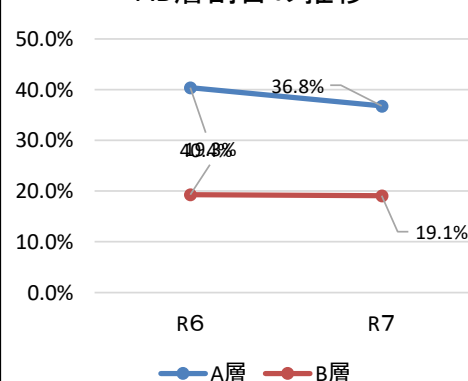


四分位における割合（都全体の四分位による）

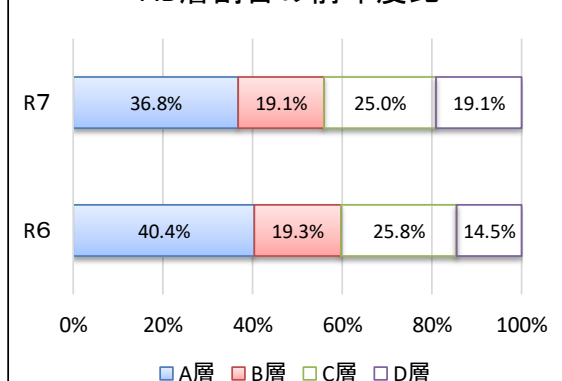
国語	上位 ← 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
一之江小学校	36.8%	19.1%	25.0%	19.1%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

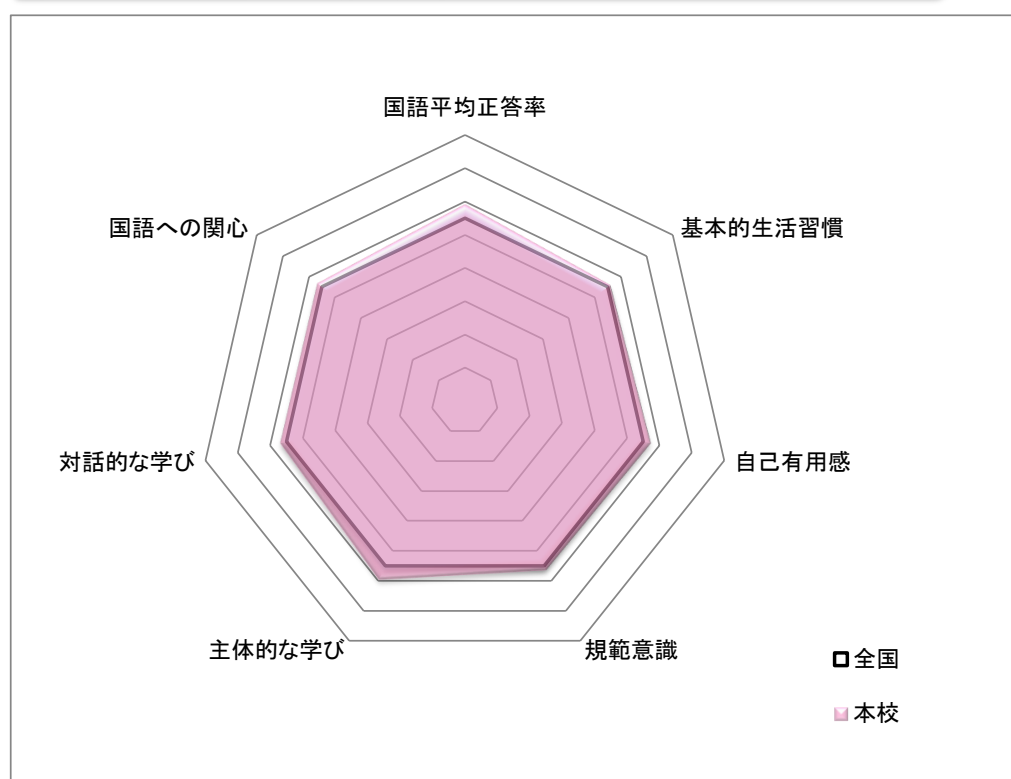
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・国語の平均正答数10.1で、東京都(9.8)、江戸川区(9.5)、全国(9.4)を上回っていた。
- ・質問紙調査で全国よりも肯定的な評価が高かったのは「主体的な学び」(1.09 全国を1とした場合の数値)で、「国語への関心」(1.03)だった。特に「国語の授業の内容はよくわかりますか」という設問の肯定的評価が高かった。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・基礎学力定着に向けての学校の取組や学力調査結果などを、学校全体や学級の保護者会、授業公開、学校のホームページ、学校だよりなどを通して発信し、理解と協力を得ていく。
- ・個人面談では一人一人の学習の状況や学校での取組などを説明していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

- ・本校のA層、B層を合わせた割合は55.9%で、東京都(60.2%)よりも低く、江戸川区(55.8%)と同程度、全国(53.7%)より高い状況だった。なお、A層のみでみると本校は36.8%で、東京都(34.4%)、江戸川区(30.0%)、全国(27.7%)より高い状況だった。
- ・本校ではD層の割合が東京都、江戸川区、全国に比べて低い一方、C層の割合(25.0%)が、東京都(18.4%)、江戸川区(19.5%)、全国(20.9%)よりも高く、授業の工夫・改善などの取組の強化を図っていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・校内研究を通して、学校全体として授業の改善・充実を進めていく。
- ・相互に授業を見合う機会を十分に設けるとともに、授業の計画や授業記録を学校全体で共有するなどして指導力の向上を図っていく。
- ・教科担任制や学年内での授業の交換を積極的に進めていく。
- ・教育委員会から定期的に講師を招くなどして若手教員を中心として指導力の向上を進めていく。

・基礎学力の保障

- ・国や区の学力調査の結果を踏まえて、基礎学力向上に向けた取組の検証、改善を進めていく。
- ・タブレット端末を活用するなどして授業の密度を濃くするように努めるとともに、一人一人に応じた指導を十分に行うようにしていく。

・学習習慣の確立

- ・「一之江学び方スタンダード」を児童、教職員でよく共通理解し、授業の中で取り組み、学び方が定着させていく。
- ・学年の発達段階に応じて、自分の学習の内容や方法を選んだり決めたりして学習計画を立てて取り組むような機会を設け、意欲的に学んでいくことができるようにする。
- ・朝学習などを通して、集中して学習に取り組む習慣を育てていく。

・AB層の育成

- ・授業の中で発展的な学習に取り組む場面を意図的、積極的に設けていく。
- ・タブレット端末を活用して授業の質、密度を高めるとともに、より主体的に取り組む活動を増やしていく。
- ・読書科などでの調べる活動を充実させ、自分の言葉でまとめたり、表現したりする機会を充実させていく。